

株式会社さくら都市総合研究所

主席
研究員

清水 秀幸



16 長野駅周辺を
考える

しかしながら、一見して「一人勝ち」とも思える長野駅善光寺口だが、一方では他地域では見られない厳しい生存競争も垣間見える。

現在、同駅善光寺口500m圏域の商業店舗は、大小合わせて約870店舗（※）と言われる。

そのうち、大規模店は、ながの東急百貨店、そして専門店を集合する駅ビルMIDORI、二線路通りのシーワン、表参道石堂町のアゲインの4店舗。

そして、飲食店が深夜営業店舗を含めると、その数約500店舗、そして、ブティッ

ク・ホビー等の服飾雑貨店が150店舗余りとなっている（弊社2015年調査）。

中でも、大規模店については、駅ビルMIDORIとアゲインが優勢、ながの東急百貨店とシーワンが苦戦と推計する。

とりわけ、ながの東急百貨店は、長きにわたる景気の停滞と周辺の専門店チェーンの台頭、ネット通販の普及、加えて新幹線開通による首都圏への利便性の向上、軽井沢アウトレットモールの集客力の増強等、極めて厳しい環境にあるのが現実だ。

それらの受難は、単に同店に限らず、全国至る所、それも百貨店

にとって好立地とされるターミナル駅前であるも、同様の状況にある。

（続く）

清水 秀幸氏（しみず・ひでゆき）1952年長野市生まれ、76年明治大学政経学部政治学科卒。2013年6月株式会社守谷商会役員を退任し、同年7月株式会社さくら都市総合研究所を設立。長野市都市計画審議会専門委員ほか3委員、その他各地方自治体の審議員・部会員を兼任。現在同研究所社長

※大規模小売店4店舗、飲食・レストランなど500店舗、ブティック・ホビーなど服飾雑貨店約150店舗、残りは骨とう品店ほか諸業種の店舗



他店との厳しい競争にさらされるながの東急百貨店